

1. 目指す学校像

建学の精神である「力の人」、そして「高い志」「豊かな感性」「他への思いやり」という3つの教育理念を踏まえ、主体的に未来を創る女性を育てる。

「自学主義」の伝統に則り、知識蓄積と知識活用を両輪に「対話的で深い学び」を軸とした、21世紀型の学力を身につける授業を展開する。

2. 中期的目標

5ヶ年計画（2016～2020）

1. 教育力の強化
2. 組織力の強化
3. 財務力の強化

上記3点を目標に改革を進める。

1. 教育力の強化

（1）生徒学力の向上

- ① 模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。
- ② コース毎に必要なとされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。
- ③ 生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- ④ 生徒の基本的な生活習慣を確立する。

（2）学習環境の増強

- ① ICTを利用した個別の学習機会を拡大する。

（3）指導体制の充実

- ① エンロールメントマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。
- ② 進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。
- ③ シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。

2. 組織力の強化

（1）ガバナンスの強化

- ① 予算編成を複数年化する。
- （2）教職協働による組織風土の改革
- ① 入試に係るデータ分析の精度向上を目指す。
- ② 事務機能を強化し、教職協働を促進する。

（3）教育環境の整備

- ① 生徒数に対して適正な教室数を確保する。

3. 財務力の強化

（1）募集強化による予算基盤の安定

- ① 中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。
- ② 高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。

自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>本校では「部署毎の年度総括」「保護者評価アンケート」「生徒授業アンケート」の3種類の資料を元に自己判断を行っている。</p> <p>(1) 教育課程について</p> <p>教育課程の適切な整備については、84%が肯定的な意見、進路指導体制については73%が肯定的な意見を述べている。保護者のニーズを汲み取り、満足度の更なる向上を目指す。</p> <p>(2) 学習指導について</p> <p>学力向上や学習内容の定着について、65%が肯定的な意見を述べている。生徒アンケートを利用しながら、学力と学習について更なる充実を図る。</p> <p>(3) 進路指導について</p> <p>進路指導の充実、進路情報の提供について、肯定的な意見は69%であった。教育課程・学習指導とともに、満足度の更なる向上を目指す。</p> <p>(4) 生徒指導について</p> <p>生活指導の充実、人権教育の充実、差別やいじめの防止に関する肯定的な意見は80%近くとなり、現行の指導が一定の成果を上げていると考えられる。</p> <p>(5) 課外活動について</p> <p>学校行事の充実に対する肯定的な意見は85%、部活動と学習の両立は75%に達している。今後もクラブ推進委員会を通じて学校生活での部活動の位置づけを定め、更なる充実を図る。</p> <p>(6) 安全管理</p> <p>登下校の安全や交通マナーへの指導は肯定的な意見が83%を超えている。施設の安全性と衛生的な管理は肯定的な意見が93%を超えており、保護者の高い満足がうかがえる。</p> <p>(7) 情報発信</p> <p>授業参観やPTA行事の頻度について、90%近くが肯定的な意見を持っている。学校からの情報発信についても、84%が肯定的な意見であり、家庭への円滑な伝達ができている。</p> <p>(8) その他</p> <p>入学させてよかったとの意見が86%と非常に高い数値であった。教員間の一貫した対応について、肯定的な意見は65%であった。教育研究委員会などを通じて、学校全体として教育指導の質的向上を目指す。</p>	<p><自己評価に対して></p> <p>(1) 教育課程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンロールマネジメント、各生徒の成績の情報共有による成果は、保護者の立場から必要を実感しています。 ・多様なコースとプログラムに対応するための工夫を十分にされていると思いました。 <p>(2) 学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の項目について65%と少し低いが、成果について保護者に伝わっていない部分もあると思います。 ・学力面では下位層の底上げの必要性を感じます。 <p>(3) 進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の対応に関して、教員連携を深める部分についてさらに取り組みを期待したいと思います。 ・多様性の時代、生徒それぞれの希望に沿う指導をして欲しい。 <p>(4) 生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上と生活習慣・自律性の二面を偏ることなく成果を上げていると感じました。 <p>(5) 課外活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーラスコンクールはクラス全員で取り組む朝練や放課後の練習で団結力もでき、学級経営に良い働きをしている。 <p>(6) 安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習室の新設など、教育環境整備は保護者の満足いくものになっていると思います。 <p>(7) 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校入試について、特化したコースの質の高い教育内容もさらにアピールすることで成果が上がると思います。 <p>(8) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップの元、様々な改革を進められ、教員間の情報共有もなされている。 <p><保護者による学校評価について(過年度比較)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において概ね前年よりポイントが上がっていることから、学院の取り組みの成果が認められると思います。 ・「そう思わない」の意見について具体的な内容を検証し、校風と照らして課題の一つにしておくことが評価の向上につながる。

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

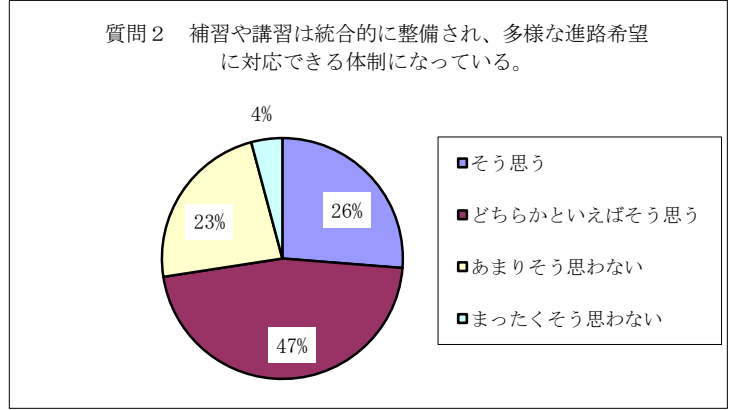
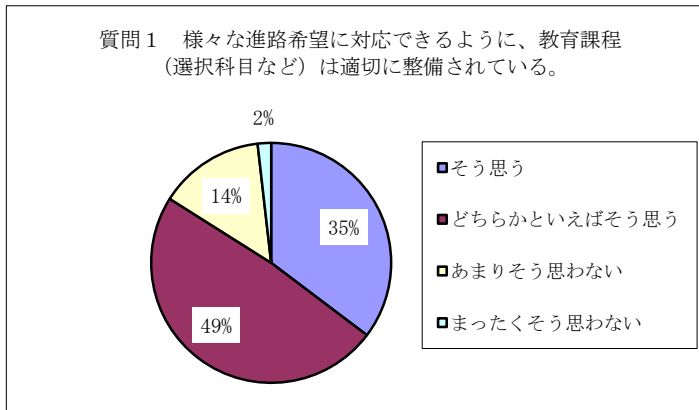
中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (1) 生徒 学力の 向上	①模試偏差値と大学入試結果向上を目指す。	①生徒一人一人の成績情報を把握し、中高6年間を見通した指導計画を策定する。	①エンロールメントマネジメント委員会による分析	①模試分析会を学期毎に設定し、各生徒の成績について担当者で情報共有を行った。中3の偏差値は目標を上回った。	①年度更新時に全教科のシラバスを検証すると同時に、各学年の模試成績を参照し、カリキュラムの調整を行う。
	②コース毎に必要とされる高い教育力・授業力を実現するため、教員研修を実施する。	②5教科は入試解法、4教科はアクティブラーニング（以下AL）の実践を引き続き研究する。AL通信を発行し、授業実践を全教科で共有した。	②教育研究委員会による授業研究実践および保護者アンケート「学習指導」項目満足度70%	②以下の4点を実践した結果、保護者アンケートの満足度は65%となり、昨年比で若干の上昇を見せた。 1. 新型大学入試の研究 2. 中高6年間の段階的・系統的指導の充実 3. AL通信発行による授業実践の教科横断的な共有化 4. 「学びみらいPASS」によるALの客観的検証	②保護者アンケート満足度70%に向けて、教科内で共有した到達目標の実現を目指す。また、「学びみらいPASS」によるAL成果の数値化も継続する。
	③生徒の多様な希望に応じたきめ細かい進路指導を行う。	③大学入試改革における推薦入試・AO入試の新方式を研究する。また、多様化する生徒の希望に対応できるよう進路指導部を中心とした教員連携を深める。	③ヴェルジェコース委員会と進路指導部による報告および保護者アンケート「進路指導」項目満足度70%	③公募制推薦の出願・合格が過去3年で増加しており、今年は最大の数字となった。保護者アンケートの満足度は75%となり、昨年比で4ポイントの上昇となった。進路ガイダンスへの肯定的評価が上昇した。	③進路指導に対する生徒の満足度をコース・専攻毎に調査し、対応の改善をめざす。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合をさらに上昇させる。
	④生徒の基本的な生活習慣を確立する。	④1. ベル席のルールおよび運用を統一化し、時刻に対する自発的な行動を促す。 2. マナー講習やDLS講習の内容を柔軟に調整し、時々の生徒ニーズに対応する。 3. 保健支援委員会・保健室・相談室との連携を深め、全教員が生徒状況をより正確に共有できるようにする。 4. 生徒会・自治会と協議し、SNSの一部解禁を目指す。	④各クラス委員からのベル席報告書と生徒指導部の年間計画および保護者アンケート「生徒指導」項目満足度80%	④以下4点を生徒指導部で実践した結果、保護者アンケート「生徒指導」項目は昨年に引き続き80%に達した。 1. ベル席のルールについて、曖昧な部分を統一した。 2. 「マナー講習」を「携帯安全教室」と統合した。 3. 保健支援委員会を通じて、対応に必要な生徒情報を共有し、必要な対応を行った。 4. SNSの使用方法について、生徒会・自治会による自主的なルール策定を促した。	④以下の4点を新たな課題として、保護者アンケートについて肯定的な意見の80%維持を目指す。 1. 社会常識から乖離した指導をしないことを目標に、校則の一部見直しを行う。 2. 心理的要因の考察などを通じて、単なる説明や注意喚起で終わらない「いじめ対策」に取り組む。 3. 生徒会・自治会を中心に生徒の自律性と自治意識を高める。 4.3に関連して、生徒会・自治会の主導によってSNS一部解禁の達成を目指す。

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
1 (2) 学習環境の強化	①先進的な教育活動を研究し、ICTを利用した個別の学習機会を拡大する。	①最新の教育的取り組みを実践に移せるよう ICTを含めたハード面での環境作りを達成する。また、オールイングリッシュの環境作りを行う。	①管理職と各部長で構成する学校運営会議での議論および保護者アンケート「安全管理」項目満足度 90%	①ICT および AL を推進するため、本校に最適な施設・設備改修を立案した。保護者アンケートの満足度は 93%となり、昨年度を上回った。	①夏休み明けの竣工を目指して AL に適した施設・設備への改装工事を行う。また、保護者アンケートの満足度 90%維持を目指す。
1 (3) 指導体制の充実	①エンロールマネジメントを実施し、成績等の生徒情報をビッグデータ化する。 ②進路分析会を実施し、模試成績による現状把握と教員間での目標共有を行う。 ③シラバス見直しを行い、コース・学年の資格取得や模試偏差値に目標を設定する。	①入試改革に向けて AL 型入試に対応すべく、各大学の入試傾向分析および蓄積を推し進める。 ②模試分析会を継続し、成績状況を適宜把握すると同時に、その最適化を進める。 ③昨年度、数学と英語で設定した目標の達成状況を確認する。国語・理科・社会についても達成目標を検討する。	①エンロールメントマネジメント委員会と教務部による分析および保護者アンケート「教育課程」項目満足度 80% ②エンロールメントマネジメント委員会と進路指導部会による分析および保護者アンケート「進路指導」項目満足度 70% ③学校運営会議による検討および教務部と各教科会との協議および保護者アンケート「学習指導」項目満足度 70%	②昨年度導入した新教務システムの実運用を行いながら、より実状に適した微調整を順次行った。保護者アンケートも満足度 80%を超え、高い水準で推移した。 ②中高 6 年間を見越した分析会を行った。1 学期と 2 学期に中 1～中 3、高 1・高 2 の分析を報告する。高 3 は学期毎に教科担当と担任で個別生徒の成績を詳細に検討した。保護者アンケートは肯定的な意見が 4 ポイント上昇した。 ③次期学習指導要領の改訂に向けた準備を行った。数学と英語で設定した達成目標を模試毎に進路指導部と担当教員で確認した。保護者アンケートの満足度は 65%となり、昨年比で同水準の推移だった。	①新教務システムについて、年間を通しての運用を元にして、次年度の中規模カスタマイズを実施する。保護者アンケートの満足度 80%以上の維持を目指す。 ②分析会の内容を各教科で共有し、授業内容や翌年シラバスへのフィードバックを行う。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合をさらに上昇させる。 ③次期学習指導要領の研究を引き続き行い、カリキュラムの検討を行う。保護者アンケートについて肯定的な意見の割合を 5%上昇させる。
2 (1) ガバナンスの強化	①予算編成を複数年化する。	①事務局ならびに本部と協議し、具体的な方向性を模索する。	①本部・事務局・管理職との協議	①年度末に節約動機の働きやすい複数年度予算のメリットを検討したが、実現が困難であることがわかった。	①教育環境の充実に向けて、予算の効率的な配分と利用を本部と協議しながら進めていく。
2 (2) 教職協働による組織風土の改革	①データ分析の精度向上を目指す。 ②事務機能を強化し、教職協働を促進する。	①web 出願システムと連動した入試行事アンケート集計プログラムの運用を開始する。 ②事務局との会議を密に設定し、募集から教育内容までを議題とする。	①入試広報部とアドミッションセンターによる協議 ②教頭と事務局による協議	①web 出願システムの行事分析と従来のアンケートを併用した。マークシートリーダーの導入は予算の関係上、見送りとなった。 ②学校業務の効率化およびスムーズな実行を達成できた。	①web 出願システムのみでアンケートを集計・分析できるよう調整を続けていく。 ②業務の実状に合わせて、事務局の再編成を模索する。

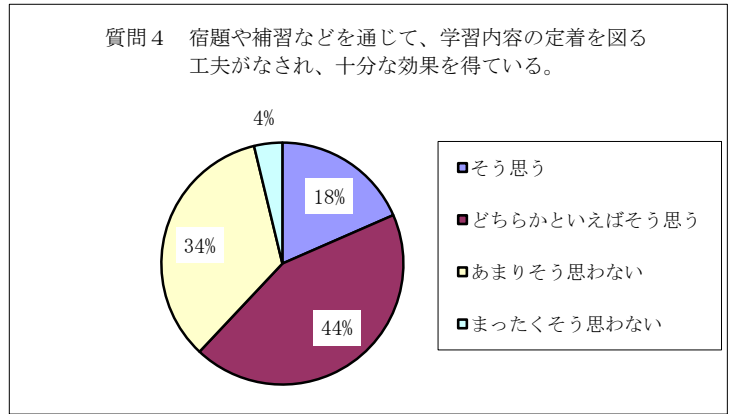
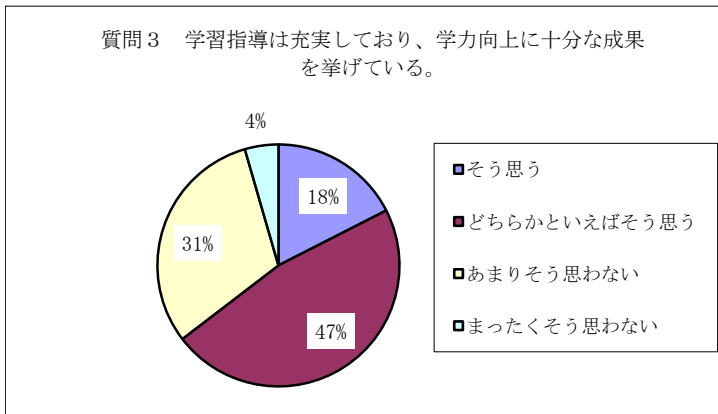
中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な 取り組み	評価指標	自己評価	課題と改善策
2 (3) 教育環境の整備	①生徒数に対して適正な教室数を確保する。	①教室の適切な改築や配置換えを行う。	①管理職および学校運営会議による協議および保護者アンケート「安全管理」項目満足度90%	①生徒数増加により教室・設備の増設補充を行った。また、自習室を新設した。保護者アンケートの満足度は93%となり、全項目で最も高い数字を示した。	①少子化に伴う生徒数推移を予測し、クラス数の増減へ柔軟に対応する。保護者アンケートの満足度90%維持を目指す。
3 (1) 募集強化による予算基盤の安定	①中学での入試行事参加者を増やし、実出願率の上昇を目指す。 ②高校での入試行事参加者を維持し、専願者数の上昇を目指す。	①接触者の数だけでなく、行事の質を担保することで満足度を高める。 ②中学訪問の回数と頻度を昨年から大幅に増やす。	①入試広報部とアドミッションセンターによる分析および保護者アンケート「その他」項目満足度80% ②入試広報部とアドミッションセンターによる分析	①接触者に対する満足度をあげることに努め、昨年比で出願率が上昇した。「この学校に入学させて良かった」と回答した保護者は86%に至った。 ②行事リーフレットや入試資料の送付数を昨年度より大幅に増やした。また、訪問エリアの拡大を行った。	①中学受験人口の漸減に対して、適正な募集サイズを模索する。入学満足度についてもさらなる向上を目指す。 ②公立にはない私学独自の教育をアピールするとともに、高校入学者数の拡大を目指す。

＜平成29年度 帝塚山学院中学校高等学校 保護者による学校評価アンケート結果＞(委員＋一般)

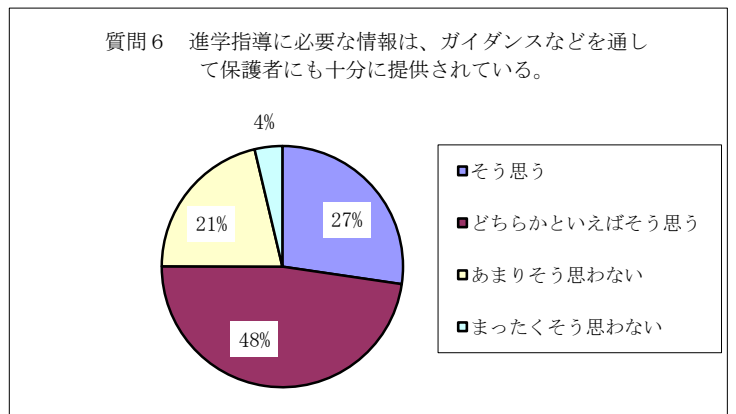
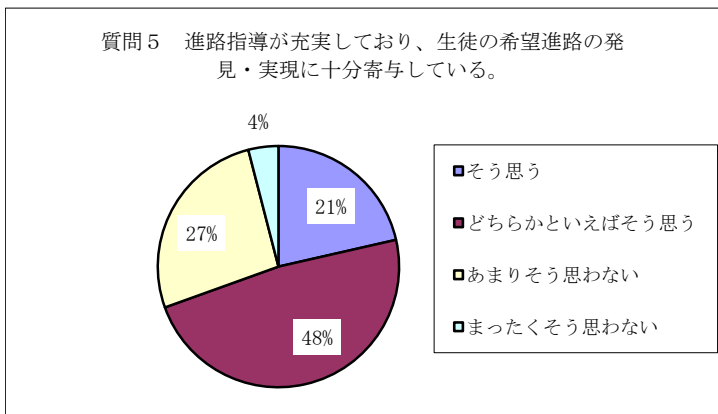
＜教育課程＞



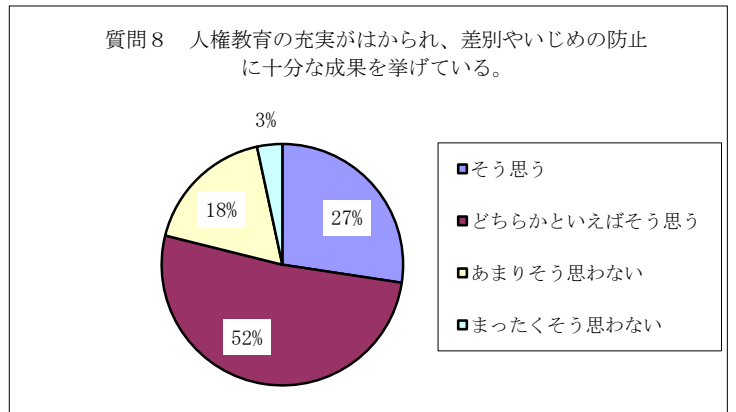
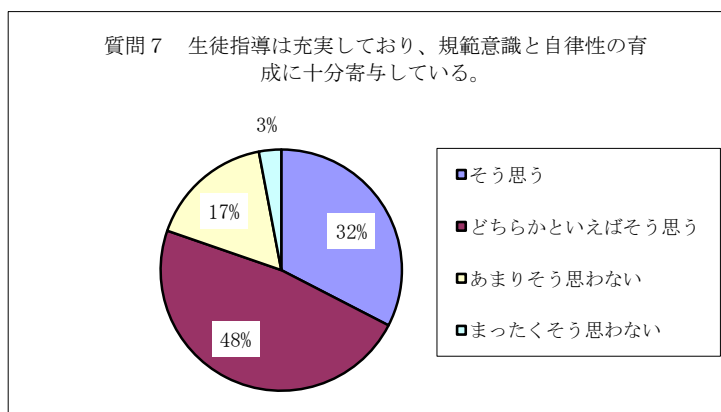
＜学習指導＞



＜進路指導＞

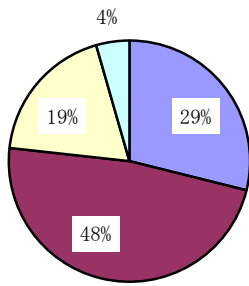


＜生徒指導＞



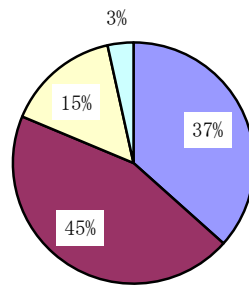
<課外活動>

質問9 部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

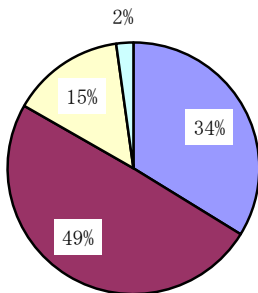
質問10 学校行事は充実しており、生徒の自主性の育成に役立っている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

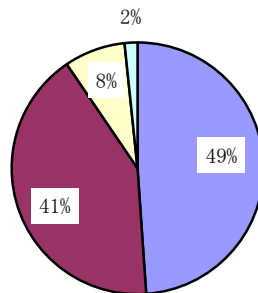
<安全管理>

質問11 登下校の安全や交通マナーに関する指導が、十分なされている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

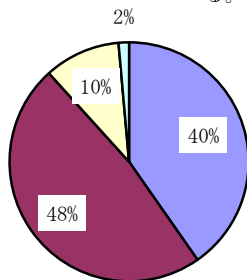
質問12 施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

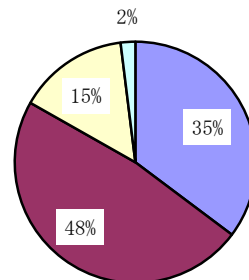
<情報発信>

質問13 授業参観やPTA行事は適切な頻度で行われており、学校の様子をうかがい知る機会として機能している。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

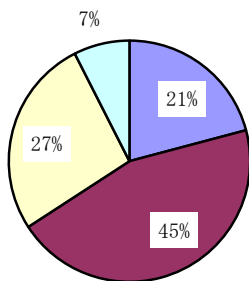
質問14 学校からのお知らせ文書などを通じて、必要な情報を不足なく得ることができる。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

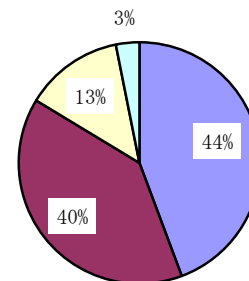
<その他>

質問15 教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても、一貫した対応が期待できる。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

質問16 この学校に入学させてよかった（知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい）と思う。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない